



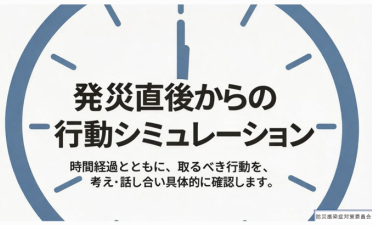
土屋 防災ニュース

2026.3 Vol.15

Writer : Kaori Hara
Yumiko Komoto



土屋の「消防・BCP災害対応訓練」を初公開！！



土屋グループでは、年に2回の「消防・BCP(自然災害・感染)災害対応訓練」を実施しています。どの地域でも起こりうる災害を想定した訓練を設定し、全国162拠点の事業所が、各拠点のハザード的な要素を入れ、咄嗟の判断力を養い、複合的なリスクに対して思考をめぐらせ行動する訓練です。事業継続を実現し、職員とクライアントの命が守れる状態を作っておくことが最大の目的です。

今回の訓練想定：真冬・極寒／食事準備中に 震度6強 → 停電 → 小規模火災発生
自社制作のシミュレーション動画を提供し、考え話し合いながら進める訓練を実施！

◆実施項目(目標) ※CLT=クライアント

複合災害(地震→停電→火災)の初動、感染症対策を役割分担して実行する。
自身とCLTの安全(落下物・転倒・低体温・服薬遅延)を優先して判断する。
119通報/避難誘導/二次災害防止(ブレーカー・ガス栓の停止)を考え実施する。
安否確認システムに入れる、職員・CLT・施設状況などを確認しておく。
全体像を想像し、各自や事業所毎で業務継続が出来る体制を考える。

【3月の防災ヒント】

- ◆ 春の寒暖差に注意
- ◆ 火の用心(乾燥対策)

事業別の訓練の様子をご覧ください

★デイホーム名東の訓練(機能訓練型デイ)



シミュレーション動画の一部を公開！ 消防庁の消火に関する動画なども取り入れ理解を深めています

T-0 | 地震発生

まずは自分の身を守る

- ・頭部を保護し、頑丈な机の下など安全な場所へ。
- ・近くに机がなければ、毛布やクッションで頭を守る。
- ・自力での避難が困難なCLTの周りの危険物を通さず、同様保護する。



一時停止

QUESTION 1

- 取るべき行動を考える
- ①地震で揺れている時の行動
 - ②停電した際の対応
 - ③停電のリスクを考える

T+3分 | 火災発生

初期消火と、撤退の判断



危険なら即撤退！

安全な範囲であれば、消火器で初期消火を行う。

少しでも危険を感じたら、無理せず即座に撤退し、指揮役へ報告する。

避難時の最低限の持出しリスト



★ケアサービス米子「清願の郷」の訓練



★ホームケア土屋 奈良での訓練



新安否確認システム - Vjica(ヴジカ) の運用スタート

職員やクライアントの安否を迅速かつ正確に確認することは、事業継続する為に欠かせない要素です！この度、株式会社土屋では独自のシステム開発を行い、所属する全社員を対象とした安否確認システムVjica(ヴジカ)を2025年2月より運用しています。

! 災害発生後の優先順位

1. 「ヴジカ」からのメールにあるgoogleフォームに安否を返信。
2. 「ヴジカ」からの返信が難しい場合は、Chatworkや電話、災害伝言ダイヤル・Web伝言板171などを使用し、必ず管理者に安否を伝えてください。

【土屋防災委員会】の

